

平成26年度全国学力・学習状況調査

貝塚市の結果

貝塚市教育委員会

平成26年度全国学力・学習状況調査 貝塚市の結果

□ もくじ

| | | |
|---------------------------------|----|---|
| I. 調査の概要（文部科学省） | P. | 1 |
| 1. 調査の目的 | | |
| 2. 調査の対象 | | |
| 3. 調査の内容 | | |
| II. 結果の概要について | P. | 2 |
| 1. 各教科の分析 | P. | 2 |
| 2. 領域・問題別の正答の状況と問題について | P. | 3 |
| ・小学校 国語・算数 | P. | 3 |
| ・中学校 国語・数学 | P. | 4 |
| III. 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より） | P. | 5 |
| IV. 学校生活・学習等について（児童生徒質問紙調査より） | P. | 6 |
| V. 今後に向けて | P. | 7 |

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成26年10月 貝塚市教育委員会

今年度、4月22日に文部科学省により全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。

貝塚市教育委員会は、この分析結果を保護者や地域の方々と共有し、今後の本市の教育施策や学校の取組に活かすことにより、本市教育を一層充実させて参ります。

なお、この学力調査により、測定できる学力は特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を表すものです。

I. 調査の概要（文部科学省）

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象

- 小学校及び支援学校小学部 6年生
- 中学校及び支援学校中学部 3年生

3. 調査の内容

○教科に関する調査

小学校： 国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）
国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

中学校： 国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）
国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

○質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

Ⅱ 結果の概要について

1. 各教科の分析

A区分：知識・技能に関する問題

B区分：活用する力に関する問題

(1) 小学校

(単位 %)

| 教科 | 区分 | 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|----|-----|------|------|------|
| 国語 | A区分 | 66.8 | 70.7 | 72.9 |
| | B区分 | 49.2 | 52.6 | 55.5 |
| 算数 | A区分 | 75.8 | 77.3 | 78.1 |
| | B区分 | 54.5 | 56.3 | 58.2 |

小学校のA区分では、国語で 3.9 ポイント、算数で 1.5 ポイント大阪府平均（以降、府平均と記します）を下回り、今回出題された学習内容の知識・技能の定着について課題が見られます。

B区分では、国語では、3.4 ポイント、算数では 1.8 ポイント府平均を下回り、知識・技能を活用する力に課題が見られます。

(2) 中学校

(単位 %)

| 教科 | 区分 | 貝塚市 | 大阪府 | 全国 |
|----|-----|------|------|------|
| 国語 | A区分 | 77.5 | 77.0 | 79.4 |
| | B区分 | 47.7 | 47.2 | 51.0 |
| 数学 | A区分 | 65.9 | 65.0 | 67.4 |
| | B区分 | 59.5 | 56.9 | 59.8 |

中学校のA区分では、国語で 0.5 ポイント、数学で 0.9 ポイント大阪府平均（以降、府平均と記します）を上回り、今回出題された学習内容の知識・技能の定着が図られています。

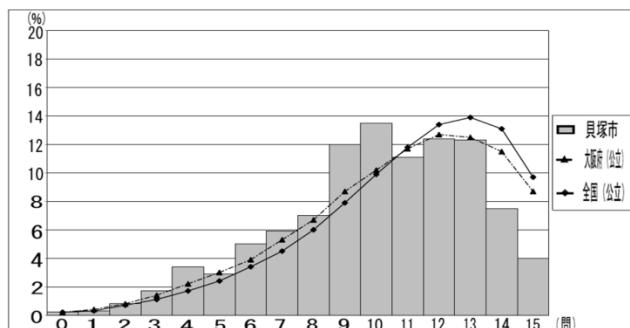
B区分では、国語では、0.5 ポイント、数学では 2.6 ポイント府平均を上回っていました。

※「貝塚市」、「大阪府」、「全国」としているのは、貝塚市内公立学校・大阪府内公立学校・全国の公立学校の平均値を表しています。

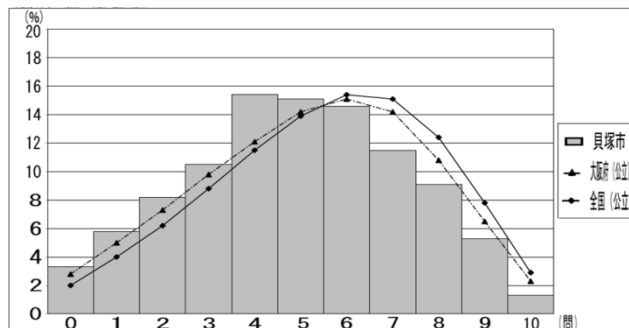
2. 領域・問題別の正答の状況と課題について

小学校国語

国語A



国語B

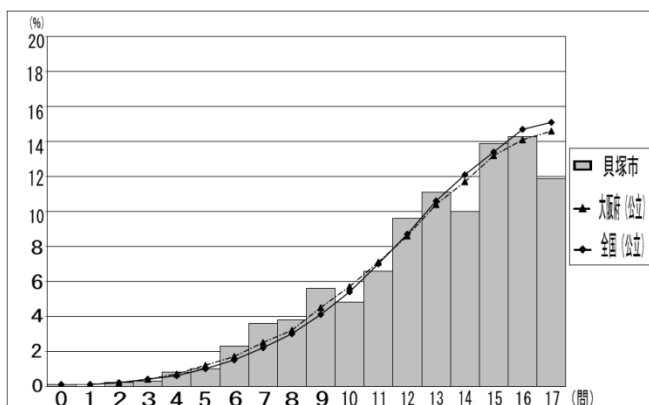


国語A（主として知識）では、故事成語の使い方や情景描写を正しく理解し、適切なものを選択することに課題が見られます。

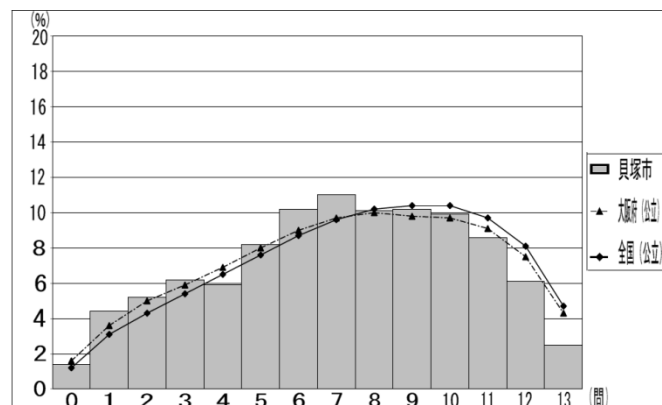
国語B（主として活用）では、特に、わかったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関連づけながらまとめ、自分の考えを書くことに弱さが見られます。また、立場を明確にして、疑問や意見を述べることに課題が見られます。

小学校算数

算数A



算数B

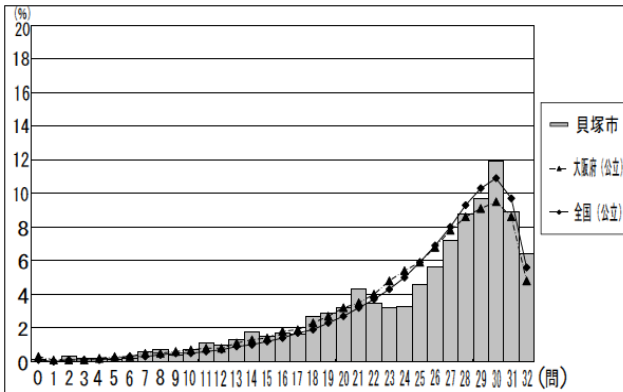


算数A（主として知識）では、数と計算、数量関係で、割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることを理解している、単位あたり量の求め方がわかる、コンパスを使った平行四辺形のかき方（約束や性質）についてわかる、等に弱さがみられます。

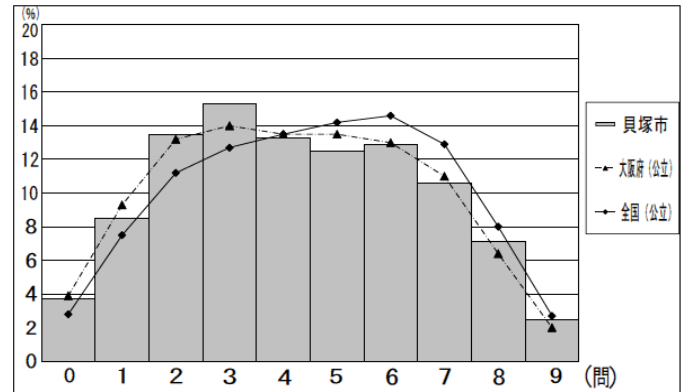
算数B（主として活用）では、示された情報を整理し、道筋を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述したり、規則性を見だし、それを基に問題を解決したりすることに課題が見られます。

中学校国語

国語A



国語B

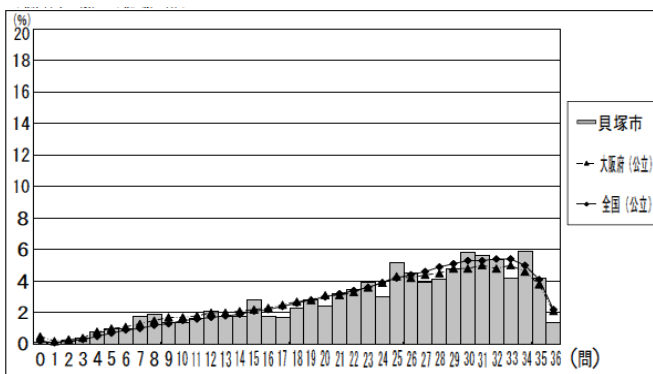


国語A（主として知識）では、概ね定着が図られていますが、適切な語句を選択したり、辞書を活用して、語句の意味を適切に書いたりすることにやや弱さが見られます。

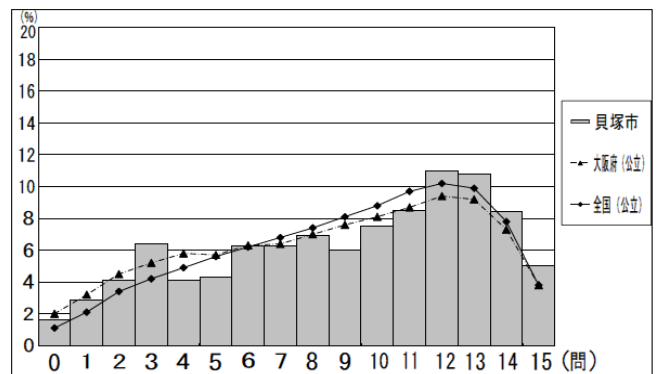
国語B（主として活用）では、特に資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことや、複数の資料を比較して読み要旨を捉えること、文章の構成、表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書くことが課題としてあげられます。

中学校数学

数学A



数学B



数学A（主として知識）では、資料の活用で、度数分布表から相対度数を求めることや、ヒストグラムにおいて中央値の意味や確率の意味理解等に弱さがみられます。また、図形では、円柱と円錐の体積の比較や、角の対応を読み取ることに弱さがみられます。

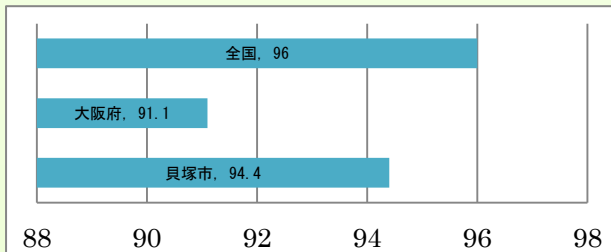
数学B（主として活用）では、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する問題や、グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することに課題がみられます。

Ⅲ. 基本的な生活習慣等について（児童生徒質問紙調査より）

- ① 「毎日朝食を食べている」子どもの割合は、府平均よりも高いですが、全国平均と比べると課題がみられます。

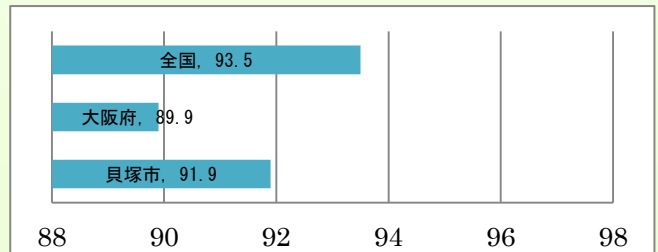
小学校

(%)



中学校

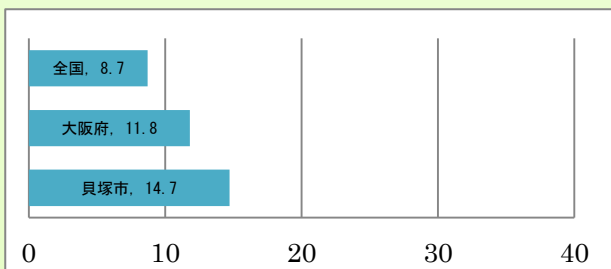
(%)



- ② 携帯・スマートフォンの使用（2時間以上）の割合は、小学校では、府平均より、2.9ポイント高く、中学校では、府平均より0.9ポイント低くなっています。

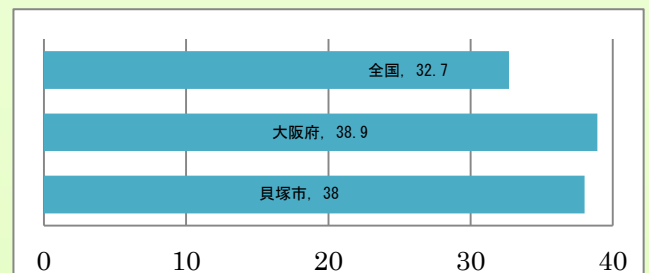
小学校

(%)



中学校

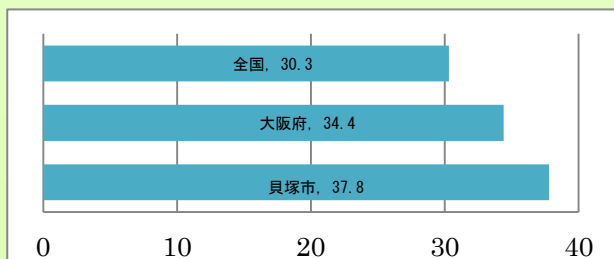
(%)



- ③ 1日あたりテレビゲームを2時間以上する子どもの割合は、小学校で府平均より3.4ポイント高く、中学校では、府平均より1.4ポイント低くなっています。

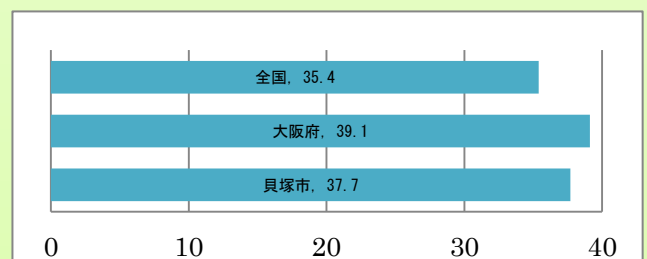
小学校

(%)



中学校

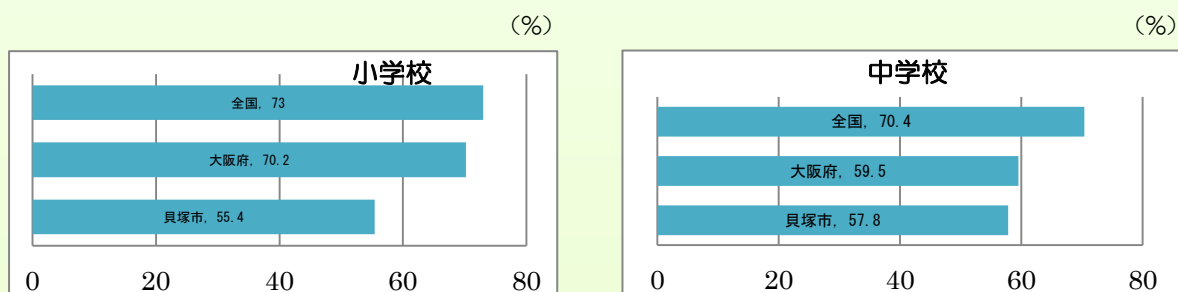
(%)



※平日で1日2時間以上もゲームや携帯等で遊んでいれば、その他の行動をする時間は制限されてしまいます。全国データの分析から、利用時間と学力との相関関係が明らかになり、1時間を超えると、時間の伸びと共に正答率が落ちてくるといわれています。

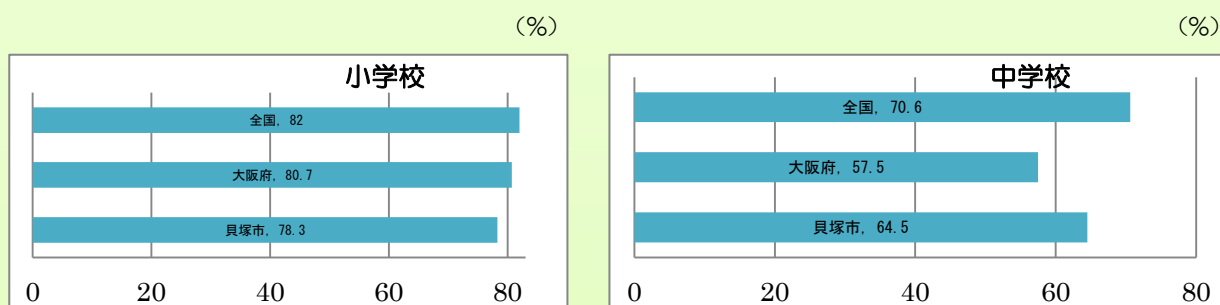
IV. 学校生活・学習等について（児童生徒質問紙調査より）

- ① 読書が好きな子どもの割合は、小学校では、府平均よりも 14.8 ポイント、中学校では、1.7 ポイント低くなっています。



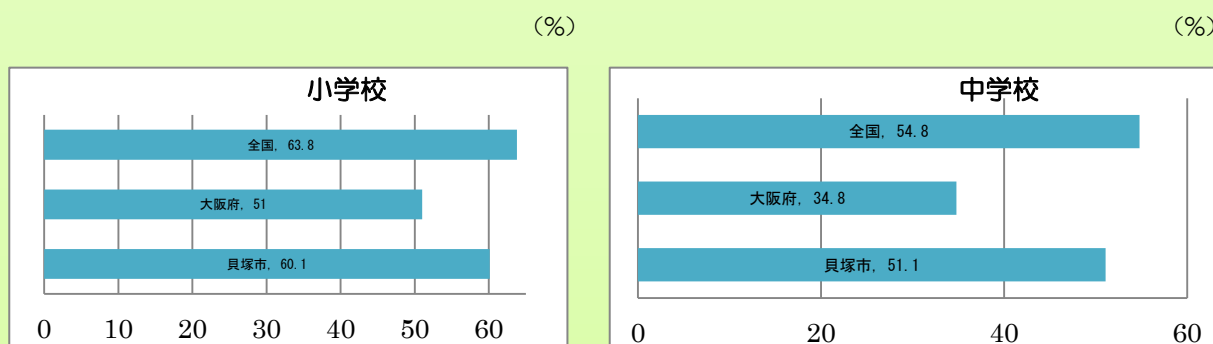
※全国データの分析から、「読書が好き」の割合と児童生徒の平均正答数は強い相関関係があるといわれています。

- ② 授業のはじめに「目標（めあて・ねらい）」が示されていた」と回答した児童は、小学校では、府平均よりも 2.4 ポイント低く、中学校では、7 ポイント高い割合になっています。



※全国データの分析から、授業の中で、国語の学力と特に強い相関がみられたのは「目標（めあて・ねらい）の提示」でした。

- ③ 「総合的な学習で探求的な活動を行っている」と答えた子どもの割合は、小学校では、9.1 ポイント、中学校では、16.3 ポイント、府平均より高くなっています。



※全国的に、「総合的な学習の時間」と学力の相関関係が注目されています。

V. 今後に向けて

全国学力・学習状況調査の結果等から明らかになった課題について、教育委員会、学校等で連携しながら改善に向けて取り組んで参ります。
主な取組は以下のとおりです。

1. 全国学力・学習状況調査の結果等を活用・分析して明らかになった課題については、学校のみならず、教育委員会とも連携し、学力向上に向けて取り組んで参ります。
2. 教員のスキルアップのためニーズに応じた教員研修のさらなる充実をめざします。
3. 一人ひとりの子どもに応じたきめこまやかな指導をめざします。
4. わかる授業づくりに向けたさらなる授業力向上をめざします。
 - ◆ 児童生徒の興味・関心を高め、基礎・基本の定着にむけた授業づくり
 - ◆ 「めあて」「ふりかえり」「言語活動」を重視した授業づくり
5. 家庭学習の定着・習慣化に取り組んで参ります。
 - ◆ 家庭と連携しながら、読書習慣の定着と共に子どもたちの自学自習力の育成
6. 学校・家庭・地域で、子どもを育て参ります。

「朝食をしっかりと食べる」など、規則正しい生活を送ることが大切です。今後も、「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進して参ります。

また、携帯・スマートフォンやゲーム等の利用について、学校・家庭が一緒に考えていくことが必要です。

これからも、本市では、学校・家庭・地域で子どもの学びをしっかり支えていけるよう取り組んで参りたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。